

# 日中から世界への株価連関の変化

一橋大学大学院生 山崎邦利

## 【要旨】

本論文は、最近の世界の株価連関状況に関して、実証分析による研究成果を報告すると共に、日中の株価が世界の株価に及ぼす影響の変化を考察するものである。結論から述べると、世界の株価連関性は近年においてより増加していた。我が国日本も世界の連関の渦中にあることは間違いないが、世界に対する影響力は徐々に衰える傾向にあることが確認された。その理由の一つは同じアジア圏における中国の台頭であった。中国が影響力を増せば増すほど相対的に日本の影響力は薄れていく結果だった。2007年1月5日から2016年5月17日まで計2442日分の日次終値データを使用し、時系列相関モデルとVARモデルを使った実証分析を行っている。世界主要株式市場を有する日独英米の4カ国の株価指数変動から、最近の世界の株価連関性を分析し、時系列で株価連動性の変化を確認している。日本の世界に対する影響力が薄れつつある、その原因の特定のため中国株価を加えた分析も行った。中国を加えた分析では、より一層、日本の世界に与える影響力の弱まりと、中国の説明優位性の強まりが確認された。この分析結果は、アジア圏における中国の台頭を証明しており、同時にアジア圏の覇権を失いつつある日本の現状を浮き彫りにするものであった。